

第37回 佐倉市地域公共交通会議 議事録

日 時	令和7年12月18日(木) 午前10時00分から午前11時00分
場 所	議会棟1階 全員協議会室
出席者	<p>○ 出席委員 角田 一洋委員、渡邊 友樹委員、富田 篤史委員(代理:中村氏) 田口 健委員(代理:鈴木氏)、村中 博之委員、嶋田 哲夫委員(代理:吉田氏)、山本 崇史委員、高山 和征委員、金子 雅弘委員、松井 強委員、三枝 稔委員、福浪 新一委員、伊藤 昌央委員(代理:進氏)、大出 正弘委員、櫻井 高明委員、島村 美恵子委員(代理:中村氏)、古藤 洋崇委員(代理:加藤氏)、兼坂 誠委員、小早川 悟委員、 以上19名</p> <p>○ 事務局職員 菅澤都市部長、菊間都市計画課長、長坂主査、金子主査補、古川主事、島崎主事</p> <p>○ 傍聴人 2人</p>
配布資料	委員名簿 資料1 佐倉市運賃協議会条例 資料2 佐倉市運賃協議会委員名簿 資料3 地域公共交通計画の取組・評価について
議 事	報告事項 佐倉市運賃協議会の設置および委員委嘱について 佐倉市地域公共交通計画の取組について

1 開会

2 委員紹介

3 会議の運営について

○議長

議事に先立ち、会議の公開または非公開の決定と、本日の会議の議事録署名人の指名をさせていただきたいと思っております。本日の会議につきましては、非公開に該当する事項が含まれていないことから、佐倉市情報公開条例に基づき、公開とさせていただきます。

(異議なし)

○議長

ありがとうございます。それでは本日の会議は公開といたします。議事録署名人

につきましては、京成バス千葉イーストの渡邊委員。市民委員の松井委員のお二方をお願いしたいと思います。両委員には後日議事録の確認とご署名をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

それでは、事務局は本日の会議の傍聴人の有無を確認してください。

○事務局

傍聴希望者は2名いらっしゃいます。

○議長

それでは本日の会議には傍聴希望がございますので、傍聴人に入室していただきます。

しばらくお待ちください。

(傍聴人2名入室)

傍聴人の方に申し上げます。お手元に配布している傍聴要領をご確認いただき、内容を遵守くださるようお願いいたします。また、本日お配りしています会議資料につきましては、会議終了後に事務局にて回収させていただきますので、ご協力をお願いいたします。

4 議事

① 佐倉市運賃協議会の設置および委員委嘱について

○議長

それでは次第に従い議事を進めます。報告事項「佐倉市運賃協議会の設置および委員委嘱について」、事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料1、2に基づいて説明)

○議長

ありがとうございました。

それではただ今説明のありました内容につきまして、何かご質問・ご意見があればお願いします。

(質疑なし)

○議長

質疑はないようです。運賃協議会委員の皆様におかれましては、道路運送法に基づき協議が必要となる場合には、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

② 佐倉市地域公共交通計画の取組について

○議長

続きまして、報告事項「佐倉市地域公共交通計画の取組について」事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料3に基づいて説明)

○議長

ありがとうございました。

それではただ今説明のありました内容につきまして、何かご質問・ご意見があればお願いします。それでは渡邊委員をお願いします。

○渡邊委員

京成バス千葉イーストの渡邊と申します。

意見や質問ではありませんが、今ご説明の中で乗務員不足の話があったので、実態を簡単にご報告させていただければと思っております。

旧ちばグリーンバスは再編後、京成バス千葉イーストの佐倉営業所となりました。当社に限った話ではないと思うのですが、乗務員不足はかなり深刻な状況でございます。数名という単位ではなく、ふた桁ぐらいのレベルでの乗務員が不足しているという状況でございます。

会社を合併した大きな目的の1つに採用力を強化し、しっかりとした乗務員確保を行うことがございます。佐倉市さんにおいても多大なるご支援をいただいておりますので、今後もしっかりと乗務員の確保に取り組んでいくつもりでございます。ただ、一方で劇的に乗務員が増えていくことは難しい状況においては、限られた乗務員、限られた資源をどのように活用していくかも今後、佐倉市さんとも丁寧に協議しながら、様々な路線の再編等々も検討していければと思っております。

この点については、佐倉市民の交通をしっかりと確保した上で、ご相談をさせていただければと思っております。補足というか、意見として、お話しさせていただきました。

○議長

はい、ありがとうございました。

他にご意見等ございますか。それでは、高山委員、お願いします。

○高山委員

おはようございます。タクシー協会の高山でございます。

ただいま渡邊委員から佐倉営業所、全社的な状況としてバスの運転士不足のお話があったのですが、タクシーにつきましても運転士不足がキーワードになっております。

直近ではコロナのときに、タクシーの需要がほとんど6割近くまで落ちたという状況で、かなり急激な運転士の減少がありました。

佐倉市の二種免許取得の補助や重点支援をいただきまして、何とか頑張っている方向に見えるのかなという状況でございます。令和7年度につきましても重点支援地方交付金をいただきまして誠にありがとうございます。

私どもタクシー事業者としましては、こうしたお金をいただくということは、「これからも頑張れよ」というメッセージとしてありがたく、経営に活かさせていただければと思っております。引き続きよろしく申し上げます。

もう 1 点、失礼いたします。最終ページの「次年度以降に向けて」というところでは、この部分の日本語的な部分で申し上げます。「コミュニティバスの運行継続に向けて」というところで、「乗務員不足の大きな改善を見込めない中、持続可能な運行体制を整えるために運行日数、時間帯の縮小も視野に入れて運行事業者と協議」という文言になっていますが、違った意味で市民の皆さんに捉えられてしまうと困るかなと思います。

本来の趣旨は、日数や時間帯は需要に合わせて効率的なものを目指し、その結果として、持続可能な運行体制を目指すことだと思います。なので、前面に出す文言は「日数を減らす、時間を縮小する」というネガティブな表現ではなく、「実態に合わせ、より利用者の皆さんにしっかり使っていただき、それによって公共交通が継続する」という概念のメッセージであった方がいいのかなと思います。

「運行日数や時間帯の縮小」というよりは、「利用の実態に合わせた見直し」程度にされた方が市民に対するメッセージとしてもいいのかなと思います。皆さんのご意見をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○議長

はい、ありがとうございました。

それでは事務局、何かございますでしょうか。お願いします。

○事務局

はい。都市計画課金子でございます。

高山委員のおっしゃるように、こちらに書いてあるものはもちろんコミュニティバスの利用状況、実態等、どのような使われ方を現在されているのかということ踏まえて、最適な形を目指していきたいという意味です。

例えば、単純に運行本数を半分にするというのは、利用者のことを全く考えていないやり方なので、そうではなく、今こういう使われ方をしているから、ここに力を残す方が利用者にとってはいいよねという検討をしていきたいと考えてます。

現状で言いますと全ルート 365 日、時間は 24 時間ではないですが、それなりの時間帯を確保して運行しています。しかし、地域によっては、その利用のされ方に差がある認識を持っております。検討にあたっては数値的なデータもそろえた上で、ここをこうしていくのがより効率的に利用者のニーズに応えられるにではないかという検討をしていく必要があると考えております。以上でございます。

○議長

はい。ありがとうございました。

高山委員よろしいですか。

○高山委員

はい。承知しました。

この協議はまさしく公開というところでございます。関係者が集まって地域の公共交通を協議するというところであります。今事務局からご説明ございました、需

要、状況、実態を踏まえ何が一番効率的、持続可能なのかということをおの場でしっかり議論をしながら、地域の公共交通を今後も確保していくというスタンスでいかと思います。よろしくお願いいたします。

○議長

ありがとうございました。それでは、他にご意見等ございますか。
小早川委員、お願いいたします。

○小早川委員

はい。小早川です。

私はあまり補助事業のことがわかっていないのですが、まず、一点目に3、4ページに今年度の実施事業と記載がありましたが、これは先ほどご説明あったとおり今年度で終わってしまうという理解でよろしいですか。

次に2点目、1番の補助事業については来年度以降の継続は検討しなくていいでしょうか。

それから1点目の質問と関連して、3ページの2番の二種免許取得の補助について、これは予算確保してあると思うのですが、例えば、今年度残った場合はプールしておいて、来年度予算を使い切るまで使える様にするとか、何か工夫の余地があるのでしょうか。

予算は年度内で使い切らないといけないのかもしれませんが、今年度だけ補助しますと言われてしまうと、事業者さんも来年度以降はどうなるんだろうと心配なのかなと思います。こういう助成はすごく重要だと思います。しかし、1年だけでポンと終わらせてしまうのはどうなんだろうなと思いました。なので、そのあたりのご意見をお聞かせいただければと思います。

また、「来年度以降に向けて」なんですけど、先ほど高山委員もおっしゃいましたが「縮小」という言葉は必ずしも縮小とは限らないでしょうから、できれば日数や時間帯の変更という言葉に変えておいた方が私もいいかなと思います。

最後に、1つ前の議題で運賃協議会の設置があったのですが、資料には書いていないのですが、コミュニティバスの運賃は来年度以降も改定はしないということでもいいのでしょうか。

運賃の見直しを行い、収支の改善もしていけないと、持続可能な運営には至らない可能性があるのではこのあたりどうするのかかなと思いました。もしお考えがあればお聞きしたいです。

率直な質問をさせていただきましたが、答えられる範囲で答えていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○議長

はい。ありがとうございました。
それでは事務局の方からお願いします。

○事務局

都市計画課菊間でございます。ご意見ありがとうございます。

まず、補助金の状況なのですが、3ページの1番です。公共交通事業継続支援金、物価高騰の関係です。こちらは国の交付金を活用した事業になります。昨年度も行

っております。こちらは佐倉市としては来年度以降も国や交付金の状況をみながら、どんどん活用して手を上げていきたいと考えているところでございます。ただ、現状としては今のところ、交付金活用なので単年度の補助となっております。

そして 2 番目の公共交通支援事業補助金、二種免許取得費用助成ですが、こちらは今年度、予算額に近いご利用が見込まれているところでございます。こちらは裏負担というものがなく、市の単独の事業によるものです。運転士不足が深刻ということで、市としても今後も何らかしらの支援をしていきたいと思っております。来年度に向けて、実施計画としてお願いのアクションを起こしているところです。あとは財政部局との調整という段階になっております。

続きまして 5 ページコミュニティバスの「運行継続に向けて」というところなのですが、たしかに、①のところでネガティブな表現の方が表立っています。市としても、持続可能な公共交通網の維持確保に取り組んでいくことが第一の方針になりますので、例えば利用者等を増やしていく取組等を行いつつ、持続可能な運行に努めていきたいと考えているところでございます。縮小という言葉も避けて、変更という言葉に変えさせていただければと思います。

また、料金の改定の部分なのですが、現時点におきまして料金の改定の予定はございません。ただ国からコミュニティバス等の収支等を見ていく上で、運行経費に対するの公費負担のあり方検討していくべきだとのお話もいただいております。民間事業者さんの運賃形態等も注視しながら、必要に応じて考えていくようにとらえております。

○議長

はい。ありがとうございました。

小早川委員いかがでしょうか。

○小早川委員

はい。非常にわかりやすく明確に答えていただいてありがとうございました。

○議長

はい。ありがとうございました。

それでは他にご意見等ございますか。三枝委員お願いいたします。

○三枝委員

市民委員の三枝です。まずは佐倉市、そしてバス事業者の皆様にご心から御礼を申し上げます。地域交通の確保は大変重要な社会的な課題です。

1 つめの課題は運転手さんの処遇です。私は 1,200 人ばかりの自動車運行管理会社の会長を務めていますが、需要はいくらでもあるものの、運転士が集まりません。給与や待遇改善が大きな課題であり、ここが克服できないと運営が難しい状況です。これはバス事業者さんも同様です。

最近、小湊鉄道さんが 1 日あたり 19 便を 1 便にするという報道がありました。これは経営的にも地域にとっても過酷な状況です。

関連して、東京都は 19 路線 206 便を減便し、東京都の民間バス 5 社も 199 便減便されました。その結果、給与は 369,580 円がおおよそ 560,000 円にアップしたとのことです。運転手の確保は対応をしっかりと考えていかないとはいけません。難しいとこ

ろですが、収益を上げなくてはなりません。

そこで、前にもこの会議で発言させていただいたのですが、1つ申し上げたいことがあります。成田市と八千代市の人口は増えてるのに佐倉市は減っています。なぜなのかを佐倉市として真剣に受け止め、佐倉市の人口を増加するためには佐倉市の魅力をどう訴求し、制度整備を進めるか考える必要があります。ここは交通の議論の場ではありませんが、根底には人口減少の問題があります。

また関連して、7月23日の日経新聞の記事に「首都圏鉄道会社、振興と共創ということで沿線価値高める事業を続々」という記事がありました。幹事会社としてJR東日本スタートアップや東急、小田急、西武などが参画し、関係会社として京浜、京王、東京地下鉄、東武、相鉄、交通局、JR東海、名古屋鉄道、西日本鉄道が参画しているのですが、これに京成電鉄が入っていません。こちらに京成の方がたくさんいらっしゃるので大変申し訳ないのですが、なぜ参画しないか疑問に思います。

私も佐倉市に昭和63年から住んでいますが、とても魅力がある地区だと思います。千葉都民と言われるような人が住んでる地区ですから、もっとその魅力を訴求し、東京都から人口流入を促すなど総合的な施策を立てないといけないと思います。

最後に、もう1点、先程AI技術のお話がありました。こちら5月16日の日経新聞で、路線バスを半導体商社が支援するというので、横浜市のマクニカという新興企業が新たな交通システムの実証実験をしているとありました。茨城県の境町ではソフトバンクの子会社BOLDLYと提携しています。他にも茨城県の常陸太田市、北海道の当別町、横浜のみなとみらい21区と佐賀県嬉野市が日経新聞に載っています。テレビではこれ以外の自治体も紹介されています。

佐倉市も人口減少や市職員の人数もそこまで多くないということも踏まえ、AI技術の活用を真剣に考え、できるだけこういった市と情報交換を進め、常に最先端の取組ができる市にしていく必要があると私は思います。

以上です。長くなりまして申し訳ありません。

○議長

はい。ありがとうございました。

貴重なご意見として受けとめさせていただければと思います。

おっしゃるとおり、全国的な人口減少が根底に運転士不足が発生してきているところだと思います。

我々としても、佐倉市の人口減少の要因については様々な分析等を行い、様々な要因を1つずつ潰していく施策を進めているところです。

その中で、令和11年の3月に成田空港の拡張が見込まれるということで、空港従業員の居住需要が今後、大きく見込まれる状況でございます。

こういった動きと連携した施策事業等につきまして我々としてしっかりと考えながら、いただいたご意見等踏まえまして、いろいろこの後に生かせるようにしてまいりたいと考えております。

ご意見ありがとうございました。

○議長

それでは、他にご意見等ございますか。

ないようです。

それでは、事務局は引き続き事務の方を進めていただけますようよろしくお願いいたします。

それでは本日予定していました議事は以上です。

その他、委員の皆様からせつかくこういった機会ですので報告等がございましたら挙手にてお願いいたします。

山本委員お願いします。

○山本委員

労働組合の執行委員長山本でございます。意見の場を作ってください、ありがとうございます。この場を借りて意見をさせていただきます。

私の会社では四街道駅から京成臼井駅までバスの運行しているのですが、最近、車椅子のお客様が増えてきました。京成臼井駅の降車場でお客様を降ろす際にバスの構造上後ろから降ろすしかありません。前から降りる分には今の京成臼井駅の降車場でも問題ないのですが、車椅子のお客様を降ろす際に、降車場をもう少し広げていただければ、お客様を降ろしやすいです。

この場を借りて、車椅子のお客様が降りやすい降車場の設立を要望させていただきましたらなと思いました。

○議長

はい。ありがとうございます。

何か事務局の方ございますか。

○事務局

貴重な情報ありがとうございます。

臼井駅の降車場につきましては担当部局とも相談しながら、早速、現場を確認させていただいて、何か対応できるような策があるかどうか考えさせていただきたいと思えます。

ご意見ありがとうございます。

○議長

よろしくお願いいたします。他にございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは、最後に事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局

はい。

それでは事務局よりご連絡をさせていただきます。本日は長時間にわたりご協力いただきありがとうございました。

今年度の交通会議といたしましては、本日が最後の開催予定となっております。改めて皆様のご協力に御礼を申し上げます。

交通計画の取組に関連しまして、特にバス事業者の運転手不足等について、委員の皆様からご意見をいただいております。コミュニティバスの運行継続性、或いは他の様々な交通手段の活用についても引き続き検討してまいります。今後の検討の

中で、委員の皆様にもご意見をお伺いさせていただくこともあるかと思しますので、その際はぜひともご協力いただければと思います。

来年度の会議スケジュールにつきましては、現時点では未定となっております。日程調整につきましては、早めの調整を心がけいたしますので、ご協力をお願いいたします。

事務局からは以上となります。

○議長

はい。ありがとうございました。

いただいたご意見中にございました少子化、人口減少、それから運転手の担い手不足、燃料費の高騰等は全国的な傾向ととらえてございます。そうした中で地域の実情に応じた、交通を考えていくことは非常に重要なことだと考えております。こうしたことは地方自治体、交通事業者の方々、住民の方々が一体となって取り組んでいく必要があると考えてございます。

なかなか難しい問題で、一朝一夕に進むものではないですし、特効薬といったものも明確にはないという状況でございますが、方向性や進め方は、現状がどうかというところが出発点になっていると考えています。皆様とも、緊密に連携、情報共有させていただきながら、良い方向を探ってまいりたいと考えております。

以上をもちまして第37回佐倉市地域公共交通会議を終了いたします。本日はありがとうございました。